YOMISAT 中国・アジア

香港支局 ☎2882-1392
中国総局(北京) ☎6532-2053
上海支局 ☎6384-0018
瀋陽支局 ☎2392-0965
広州支局 ☎3801-0182
台北支局 ☎2351-4569
ソウル支局 ☎732-0381
バンコク支局 ☎(02)254-3921
ハノイ支局 ☎3633-1951
ジャカルタ支局 ☎5724301
ニューデリー支局 ☎4175-3402

香港国際版購読申し込み・問い合わせ先
読売香港有限公司
香港☎ 852-2834-9332
FAX 852-2591-6266

日航の香港拠点50年

歴代乗務員1500人

OG・OBらが式典

【香港＝幸内康】日本航空が香港に客室乗務員の拠点である「基地」を設けて今年で50年を迎えた。訪日客の増加とともに、航空会社では、海外採用された乗務員の役割は大きくなっている。11月12日にはOGやOB、現役の乗務員約140人が香港に集まり、記念式典が開かれた。

海外の「基地」は便を就航している主要都市に置かれ、現地採用の客室乗務員が所属して、航空便ごとに搭乗する班を編成している。日航は現在、香港やバンコク、ロンドンなど7か所に海外基地を設置。香港は1966年8月の設立で、日航初の海外基地だった。

1期生は7人だったが、これまで約1500人が香港基地に勤務した。現在は178人が所属する。日航の江利川宗光・中国地区総代表は「香港人スタッフは英語にも堪能で、様々な国のお客様や、中国以外の路線にも対応できる」と評価する。

客室乗務員約6000人のうち、外国人は約1000人。一方で、近年の訪日客の増加に伴い、日航の乗客で外国人客が占める割合は50%弱に上り、海外基地乗務員の役割の重要度が増しているという。

式典では、チャイナドレス風（左）など歴代の制服が披露された＝幸内康撮影

11月12日に開かれた式典には、米国や豪州、日本など外国在住のOB、OGも多く集まった。9期生で横浜市在住の鄺恵明さんは、「私は背が低かったけど、思い切って応募した。仕事は楽しかった」と現役当時を振り返った。

式典では、香港基地所属の現役乗務員4人が歴代の制服を披露するファッションショーも開かれた。1966～87年当時、香港基地の乗務員が着ていたチャイナドレス風の制服が登場すると、会場からひときわ大きな歓声が上がっていた。

4日、ハノイのキューバ大使館前で花を手向けるベトナムの市民ら（AFP時事）

ベトナム カストロ氏追悼

異例の国葬並み

【ハノイ＝吉田健一】キューバのフィデル・カストロ前国家評議会議長の遺灰埋葬日の4日、友好国ベトナムでは、各政府機関が半旗を掲げたり、劇場や映画館など娯楽施設が軒並み休業したりするなど、国葬並みの対応でカストロ氏を追悼した。

ベトナムでは原則、共産党書記長、国家主席、首相、国会議長の経験者のみが国葬の対象で、外国の指導者が国葬並みの扱いを受けるのは極めて異例。ベトナム戦争中、北ベトナムと南ベトナム解放民族戦線との連帯を重視したカストロ氏への高い評価を示すものだ。

カストロ氏がベトナム戦争中に語った「キューバはベトナムのために喜んで血をささげる」という言葉は、ベトナムで広く知られている。ただ、カストロ氏礼賛報道一色の国営メディアに対し、インターネット上では、「ベトナム人でもないのになぜこれほどの扱いなのか」などとの不満の声も目立った。

10月訪日客最多

東南アジア6か国

【バンコク＝児玉浩太郎】日本政府観光局が発表した10月の訪日旅行者数のまとめによると、東南アジアの主要6か国からの旅行者数はいずれも10月として過去最高を記録した。1月からの累計では、フィリピン、インドネシア、ベトナムで、過去最高だった昨年1年間の年間合計数を早くも突破しており、特に好調を維持している。

1～10月の累計では、フィリピンが27万6500人、インドネシアが20万8200人、ベトナムが20万2600人に上り、それぞれ昨年1年間の26万8361人、20万5083人、18万5395人を超えた。

人 世界が舞台

大人の運動会 仕掛け人

今宮 徳洋（いまみや のりひろ）さん 39

今秋、上海で日系企業を中心とした運動会「楽SPOフェスタ」を初めて企画した。約60社から2000人を超える参加者が集まり、企業対抗でテニスや卓球、綱引きなどの競技に、日本人と中国人が一緒に歓声を上げた。参加者からは社内の人間関係が円滑になると喜ばれた。

「スポーツは人と人の距離を近づけてくれる」

その思いを実現させようと、2009年にイベント企画会社「上海ラクトコンサルティング」を設立した。主催するフットサルやソフトボール大会などの参加者は年々増え、年間約5000人を数える。昨年からは日系企業の社内運動会を提案し、支援している。

イベント企画へのこだわりは強い。中学校で生徒会長として文化祭を運営し、「イベントは感動になる」と感じた。自らの考えを形にしていく姿勢は、大学4年での起業につながった。各大学の講義の休講情報やアルバイト情報を取りまとめて配信する事業を始め、学生約1万人の登録者を集めた。

だが、広告収入が思ったより伸びず、約3年で撤退。約1000万円の借金を背負う苦渋も味わった。アルバイトを掛け持ちして1年半で完済し、新天地に選んだのが、語学留学の経験があり、急速に発展していた中国だった。

03年、知人のつてで上海に渡り、日系企業で人材紹介部門を任された。起業への思いもあったが、具体的に何をするか悩み、自身を振り返って思い立ったのが、原点とも言える「イベント企画」だった。

失敗経験を踏まえ、「まずは安定収入」を重視。最初に手がけたのは、飲食店の予約を代行する「楽っと予約」だ。店選びに苦労していた経験を逆手にとって事業化した。ネットに登録してもらった飲食店の広告を出し、利用したいと連絡が来れば、飲食店に予約を入れる。登録は無料で、予約が入れば店から手数料が入る仕組みだ。飲食店との関係が深まり、料理の宅配を代行する業務にも手を広げた。

収入を確保し、満を持して取り組んだスポーツイベント。「中国ではモノの豊かさから、心の豊かさを求めるようになってきた」。その流れが参加者増につながり、事業は順調だ。今後は中国や欧米企業にも呼びかけ、地域拡大も目指す。これからも「体験から得られる思い出」を作り出していくつもりだ。

（上海 鈴木隆弘、写真も）

■ 上海で日系企業のイベント企画

略歴 1977年、高知県東洋町生まれ。同志社大法学部卒。2001年に学生向けに情報を提供する「学生街」を起業。09年に上海で起業した「上海ラクトコンサルティング」の総経理（社長）。趣味は野球、ソフトボール。